

2024年度1学期終業式校長講話

○1学期が終わります

明日7月20日で1学期が終わります。4か月間様々な出来事がありました。特に東京体育館での中高合同体育祭は、生徒会や担当の先生方の努力もあって、初めての行事として成功しました。学年を超えて学校としてまとめ、一体感を作ることができたのではないかと考えます。

○今年はおリンピックの年

今年、閏年で夏のオリンピックの年でもあります。フランス・パリのオリンピック大会は、来週、7月26日（金）から8月12日（日）までの17日間開催されます。夏季オリンピックとしては第33回めの大会です。パリは、1900年、1924年に次いで、100年ぶりの開催でロンドンと並んで3度目の夏季オリンピック開催地になりました。現在のところ、204の国と地域から、選手が出場を予定しているようですが、ロシアによるウクライナ侵攻やパレスチナ情勢により参加国数は確定できないようです。このパリ大会では32競技329種目が実施されます。

現在のオリンピックは、フランスのクーベルタン男爵の提唱により、第1回オリンピックが1896年ギリシャ・アテネで開催されました。1908年の第4回ロンドン大会から、それまでは個人やチームで申し込めば参加できたものから各国のオリンピック委員会を通して参加するように変更になり、国別対抗の要素が強くなりました。また、パリ、セントルイスと続いた万国博覧会付属の大会から離れたロンドン大会には、22の国と地域から1999人の選手が参加、23競技110種目が行われました。

この大会では、とくに陸上競技でアメリカとイギリスの間にいくつかのトラブルがありました。両国民の感情が収拾できないほど悪化していたため、セントポール・カテドラルで行われたミサで、ペンシルバニアのエチエルバート・タルボット主教は各国選手団を前に「オリンピックで重要なことは、勝利することより、むしろ参加したということであろう」と説教しました。その後、イギリス政府が大会役員を招待して開いたレセプションの席上で、IOC会長であったクーベルタン男爵は、この言葉を引用して演説。「オリンピックは参加することに意義がある」という言葉がクーベルタン男爵の言葉として広まっていきました。

オリンピックの象徴でもある五輪のマーク（オリンピックシンボル）は、クーベルタン男爵が考案し、世界五大陸（青：オセアニア、黄：アジア、黒：アフリカ、緑：ヨーロッパ、赤：アメリカ）と、五つの自然現象（火・水・木の緑・土の黒・砂の黄色）と、スポーツの五大鉄則（情熱・水分・体力・技術・栄養）を、原色5色と5つの重なり合う輪で表現したものであるとする説が有力で、他にこの五色で世界の国旗全てが表されていたとする説もあります。5つの重なり合う輪はまた、平和への発展を願ったものとも考えられています。

第一次世界大戦ではドイツのベルリン大会が開催中止となり、第二次世界大戦では東京大会、ロンドン大会が開催中止になりました。第二次世界大戦後も米ソ冷戦の国際情勢の中でオリンピックは翻弄されます。1980年の当時のソ連（後のロシア）での第22回モスクワ大会では、その前年の1979年12月、ソビエト連邦のアフガニスタン侵攻に対する制裁措置として、アメリカがモスクワオリンピックのボイコットを表明し、西側諸国が不参加することになりました。1984年、アメリカでの第23回ロサンゼルス大会では、前回のモスクワ大会の報復として、ソビエト連邦や東欧諸国などが参加をボイコットしました。

この後は、オリンピックやワールドカップなどスポーツの祭典での国際的な対立は持ち込まないよ

うな配慮をしてきた部分があります。今回のパリオリンピックでの対応は今後の試金石になるかもしれません。

本来、オリンピックはその国の国威発揚、宣伝の場になるものではなく、平和の祭典・お祭りであり、その国の代表選手たちが自分の体力の極限までトレーニングをした成果を発表、競い合う場所です。改めて原点を確認して、日本の選手の活躍を期待しましょう。

○中国の高校生がやってくる

イオングループのイオンワンパーセントクラブのティーンエイジアンバサダー事業に応募したところ、本校は日本で4校のうちの1校に選ばれ、北京市師範大学附属第二中学校の受け入れ校になりました。この事業は双方向での交流事業なので、10月中旬に1週間、中国北京で日本と同じようなプログラムを体験することになっています。本校からは男女5人合わせて10人の生徒が参加しています。今週の15日から日本側受入プログラムとして、外務省や中国大使館での歓迎レセプションの他、都内での歴史文化活動があり、昨日は地域PR活動として、本校の所在する茨城県を中国の高校生に案内しました。時間が限られているので、水戸の弘道館と偕楽園を見学して、地元の牛久大仏に行ってきました。

今日この集会の後には、本校での歓迎式典を行い、今日1日は本校で、授業や部活動などの体験活動を行ってまいります。皆さんも機会があれば北京の生徒たちと交流してください。

日本と、現在の中国との国交は、1972（昭和47）年に回復しました。その時の声明文の一部を外務省のホームページから紹介します。

日本国政府と中華人民共和国政府の共同声明

日中両国は、一衣帯水の間にある隣国であり、長い伝統的友好の歴史を有する。両国国民は、両国間にこれまで存在していた不正常な状態に終止符を打つことを切望している。戦争状態の終結と日中国交の正常化という両国国民の願望の実現は、両国関係の歴史に新たな一頁を開くこととなろう。

日本側は、過去において日本国が戦争を通じて中国国民に重大な損害を与えたことについての責任を痛感し、深く反省する。また、日本側は、中華人民共和国政府が提起した「復交三原則」を十分理解する立場に立って国交正常化の実現をはかるという見解を再確認する。中国側は、これを歓迎するものである。

日中両国間には社会制度の相違があるにもかかわらず、両国は、平和友好関係を樹立すべきであり、また、樹立することが可能である。両国間の国交を正常化し、相互に善隣友好関係を発展させることは、両国国民の利益に合致するところであり、また、アジアにおける緊張緩和と世界の平和に貢献するものである。

1972年9月29日に北京で

日本国内閣総理大臣 田中角栄

日本国外務大臣 大平正芳

中華人民共和国国務院総理 周恩来

中華人民共和国 外交部長 姬鵬飛

52年前の声明文ですが、これが日中国交回復、友好の原点であり、この声明文を忘れてはいけません。さらにこの共同声明に基づいて、中国政府からパンダ2頭（カンカンとランラン）が東

京の上野動物園にやってきました。私が中学1年生の時です。

現在、日本と中国、中華人民共和国とは国家間では、解決していかなければならない難しい問題もありますが、人と人、高校生同士では、そういった障害は乗り越えて仲良く交流していきたいものです。そして、こういった交流を積み上げて最終的には日本と中国との相互理解、交流となっていくものと考えています。

○これからの生き方について

現在、皆さんが在籍している中学校・高等学校というものは、社会人・大人になるための準備期間という位置づけになります。学校として、卒業後の人生を生きていく上で必要だと思うことを、身につけてほしいと思っています。

自分自身を高める、向上させるためには、学校での学習を踏まえて、自分で努力することが大切だということです。皆さんにはそれぞれこれからの目標があると思います。その目標に向けて、自分自身で努力することが必要です。もしまだ目標がないならば、それをこの夏休みに見つけてください。目標がある人は、その目標を達成のための手段は何かを考えて行動できるようにしましょう。

○夏休みを迎えるにあたって

21日から夏休みになります。それぞれ自分の課題をもって、この夏どうやって克服するか、皆さんの真価が問われます。3年生は自分の進路実現のための努力、2年生は3年生が引退した後のそれぞれの部活動などの中心になって活躍してください。1年生は本格的に高校生活が始まります。8月26日の始業式には全員元気に登校してきてください。